

小児がん・AYA世代のがん・希少がん・がんゲノム

小児がん

小児がんは、小児がかかる様々ながんの総称です。
血液のがんである白血病やリンパ腫を除き、大人では稀なものばかりです。



こちらも Check!

- 国立がん研究センター がん情報サービス(小児がんの人へ)
https://ganjoho.jp/public/life_stage/child/index.html



AYA世代のがん

思春期・若年期に発生する「がん」を **AYA 世代** (Adolescent and YoungAdult) のがんと呼びます。がんの治療とともに、進学、就職、結婚、出産等様々な社会的変化を伴う年代であることから、年齢に応じた療養環境や人的サポートが必要です。

こちらも Check!

- 国立がん研究センター がん情報サービス(AYA 世代の人へ)
https://ganjoho.jp/public/life_stage/aya/index.html



妊よう性温存

\ POINT! /

がんの治療では、一見妊娠と関係のないような臓器にがんができた場合でも、生殖機能に影響してしまい、妊娠するための力が弱まったり、失われたりすることがあります。

近年では、将来自分の子どもをもつ可能性を残すために、卵子や精子、受精卵を凍結保存する「妊よう性温存」という選択肢も加わってきました。悩みを1人で抱え込まず、主治医やがん相談支援センターにご相談ください。



こちらも Check!

- 国立がん研究センター がん情報サービス(妊よう性)
<https://ganjoho.jp/public/support/fertility/>



大分県では、がん患者さん等の妊よう性温存療法の治療費を助成しています。詳細は18ページへ。

希少がん

希少がんとは、年間発生率が人口10万人あたり6例未満のがんのことです。

がんゲノム医療

がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ、遺伝子変異(※1)を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療です。

現在、県内では大分大学医学部附属病院と大分県立病院ががんゲノム医療連携病院として指定されており、九州大学病院と連携しながら検査等の体制整備をすすめています。

(※1) 遺伝子変異：がん細胞の中の遺伝子がなんらかの原因で後天的に変化することや、生まれもった遺伝子の違い

こちらも Check!

国立がん研究センター がん情報サービス(がんゲノム医療)

https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/genomic_medicine/genmed01.html



上記についての相談は、がん相談支援センターで受けることができます。

少しでも気になることがあれば、がん相談支援センターにお問い合わせください。

よろしくお願いします

